

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

国際こども・福祉カレッジ 実施報告書



実施主体 国際こども・福祉カレッジ 総合福祉・福祉心理学科1年生
実施内容 平成25年10月12日、13日の学園祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待に関する文献を各自で勉強、ポスターの作成

②実施期間に取り組んだ具体的内容

学祭に訪れた方々に対し、児童虐待についての説明を様々な資料を踏まえて説明した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

自分たちで勉強をすることで、児童虐待に対する理解が今まで以上に深まった。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 富山福祉短期大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科社会福祉専攻1年生有志

実施内容 平成25年9月20、21日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

虐待について、厚生労働省等のホームページの情報を収集し、学生みんなで読み込んだ。虐待についての情報から、学園祭に来る人たちへ、一番訴えたい・知ってもらいたい情報を精査・抽出した。漫画や映画・ドラマで、児童虐待をテーマにしたものを探した。漫画やドラマで描かれた虐待場面を探し出した。

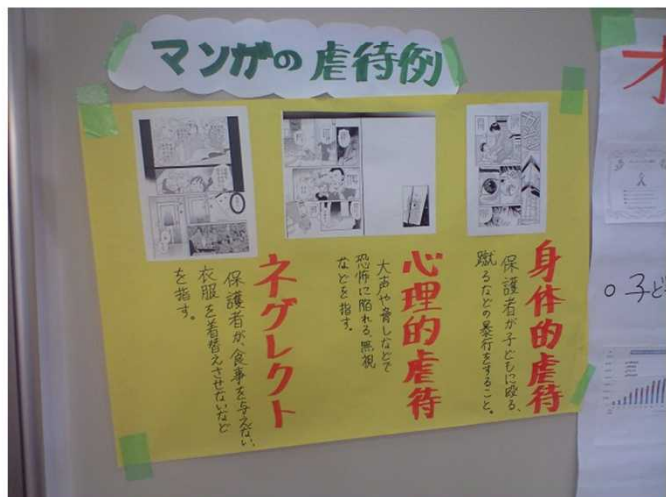
②実施期間に取り組んだ具体的内容

児童虐待について知ってもらいたい点を模造紙に書き、展示した。

- ・漫画の虐待場面を選び、どのような虐待に当たるか示した。
- ・過去のドラマで、児童虐待をテーマにしたものを紹介した。
- ・オレンジリボンを作成できるように、準備した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・日ごろから興味あるテーマであったが、児童虐待についてより詳しく学ぶことができた。
- ・深刻な事態であることは分かっていたが、よりひどくなっているとは知らなかった。
- ・多くの人たちに知ってもらいたいと感じた。
- ・漫画やドラマで描かれてはいるが、一過性に終わっている気がした。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 身延山大学 実施報告書



実施主体 福祉学科 こども学コース 2年生有志

実施内容 平成25年10月27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待の原因・現状を調べ事例を取り上げた。また、それらをまとめた。啓発の資料やリボンの入ったクリアファイルの作製を行った。こどもが遊べるように段ボールハウスを作製した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

学園祭にて児童虐待についてまとめたものを展示し、会場に足を運んでくれた方に児童虐待についての説明を行った。

啓発の資料やリボンの配布を行った。

また、こどもが遊べるコーナーを用意し事前に作製した段ボールハウスを設置した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

準備の段階で児童虐待の実態や対応方法などを詳しく知ることができました。虐待がない社会を作っていくことが大切だと改めて実感しました。

学園祭では、会場まで足を運んでくださった方が、児童虐待について関心を持ってくれたと思いました。また、模造紙や配布した資料を読んで感想や意見を言ってくれる方もいました。それぞれが児童虐待について考える時間を持ってくれたのでよかったです。

講義だけでは学ぶことができないことを学ぶことが出来ました。このような機会をいただいで私たち自身とても勉強になりました。今後もこのような機会があればぜひ参加していきたいです。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

岐阜女子大学 実施報告書



実施主体 初等教育学専攻学生有志

実施内容 平成 25 年 10 月 12、13 日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

HP 等で公開されている資料を活用して、講義内で児童虐待についての理解を深めた。
(児童虐待の実態や背景となる心理社会的背景について)

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭内の子ども広場に来た親子に様々な遊び（的当て、新聞紙を使ったおもちゃづくり、紙芝居等）を提供し、親子で一緒に楽しんでもらうことを主体に活動を行った。
その中で、オレンジリボン運動についても触れた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・児童虐待という言葉は知っていたが、その内訳や内容について詳しくは知らず、勉強になった。
- ・一人一人が虐待について理解をしておくことが必要だと思った。
- ・将来は教員を目指しているので、虐待の防止・発見に努めたい。
- ・虐待をしてしまう母親の気持ちも受け止めつつ、子どもが虐待されないように支援していきたいと思った。
- ・（コーナーで）親子で一緒に楽しんでもらうことで、家に帰ってからも楽しさを共有してもらえたら嬉しい。それが虐待防止に繋がればいい。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 中部学院大学 実施報告書



実施主体 人間福祉学部人間福祉学科 社会福祉援助技術演習Ⅱ大藪クラス
実施内容 平成25年10月27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待に関するテレビ番組を視聴し、基礎的な知識を身につけた上で、児童虐待をどのようにして防ぐか、KJ法にて整理をした。
これらを踏まえて、展示物を作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

「たのしみん祭・大学祭」及び「第14回人間福祉学会2013」の会場において、学生が作成した展示をするとともに、声かけをしながら、オレンジリボンのバッチとチラシ、しおりを手渡した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

児童虐待の実態から学び、その背景について整理をすることによって、問題の本質に迫ることをめざした。これにより、子どもを守ることが最も重要なことであるが、児童虐待を防ぐためには、親を支援する必要があることを結論の1つとして導き出すことができた。親を支援するためには、周りの人が変化に気づき、声をかけ、必要に応じて「通報」することが、親を支援することにつながるということがわかった。

このためには、児童虐待のことを知ってもらう必要があるため、ソーシャルアクションに関する学びとして、オレンジリボン運動に取り組んだ。

社会福祉士の立場から地域住民に向けた展示物を作成をするという演習を行い、「たのしみん祭・大学祭」、「人間福祉学会」で展示した。しかし、あまり読んでもらうことはできず、ソーシャルアクションの大切さと難しさを学ぶことができた。

KJ法での作業の様子



「たのしみん祭・大学祭」での展示の様子



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

静岡県立大学短期大学部・佐々木ゼミ実施報告書



実施主体 社会福祉学科 社会福祉専攻2年 佐々木ゼミ学生

実施内容 平成25年11月10日(日)大学祭で児童虐待シンポの開催

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボンの背景について、ゼミで事前学習した。虐待の実態及び事例について、最新の虐待現状について資料収集を行った。児童虐待防止啓発資料として、手づくりポスターを作製した。学園祭に向け児童虐待シンポジウム資料を作成した。虐待の事例を基に、虐待防止に向けた取り組みについて、それぞれの立場で何ができるかについてゼミで協議した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・児童虐待防止に向けたチラシ(3,000部)及びのぼりを作成し、静岡駅前及び東京新宿東口駅アルタ前で、児童虐待防止に向けた啓蒙活動を行いチラシの配布を行った。(写真参照)
- ・平成25年11月10日学園祭で、「防ごう児童虐待・守ろう子どものいのち」をテーマに、シンポジウムを、子ども虐待防止センター静岡と共同で開催した。
- ・上記の開催においてオレンジリボンを参加者に配布しシンポジウムではリボンの説明をした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・この企画を通して、オレンジリボンが学生には余り知られていないことに気が付いた。
- ・オレンジリボンをシンポジウムで配布し、シンポジストがその発端となった虐待事例を報告したため、会場からは、涙声が聞こえ衝撃的であった。
- ・保育士養成校として、児童虐待防止への取り組みは、今後の教育活動に有意義であったと考えられる。
- ・なぜなら、虐待の過程にはグレーゾーン(啓発・教育)、イエローゾーン(要支援)、レッドゾーン(要保護)の3段階があり、これらは未然防止が可能なことを学生は学んだからである。
- ・チラシの配布を通して、学生はこの小さな活動が、地域の子育て支援と社会全体で子どもを養育して行かなければならない必要性を学んだ。
- ・シンポジウムでは、オレンジリボンの背景、虐待の現状、虐待の事例、虐待の防止など、学生は幅広く学習し、保育士として、将来子どもの命を守って行く社会的責任を学習した。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

東海学園大学 実施報告書



実施主体 教育学部 学生ボランティアサークル「ソレイユ」

実施内容 平成 25 年 11 月 13 日 教育学部行事講演会にて参加学生に啓発活動を実施

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボン活動の由来に関する学習

子どもの人権をメインに児童虐待防止の手作りカードを作成

②実施期間に取り組んだ具体的内容

NPO の啓発活動「講演会」「子どもへのワークショップ」等に参加し、児童虐待防止の実践に触れた。その上で、学部で実施した CAP の講演時に、参加した一年生に啓発活動を行った。

③感想

・ NPO 活動に参加して、様々な場所で児童虐待防止活動が行われていることを体験し、実践的に学んだ。

・ NPO の子どもたちとのワークショップ活動に参加し、児童虐待防止の啓発活動により関心をもった (1)。

・ 手作りカードを作成し、後輩の学生にカードを手渡しすることを通して、啓発活動の大切さを学んだ (2)。

・ 講演で児童養護施設で育った人の話を聞き、将来の仕事に生かしたいと思った。



(1)



(2)

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

至学館大学 実施報告書



実施主体 健康科学部こども健康・教育学科吉田ゼミ3年生

実施内容 平成25年10月大学祭、11月授業時において啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待の現状と課題やオレンジリボン運動に関する展示資料の作成、啓発活動用パワーポイントの作成およびプレゼンテーションの練習、配布用オレンジリボン作り、オレンジツリーとメッセージカードの制作などに取り組んだ。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボン及び啓発チラシを配布するとともに、資料を活用して児童虐待の現状や背景等について説明した。小学生には、暴力防止・人権擁護という観点から絵本を選び読みきかせた。また、学内に「オレンジツリー」を掲示し、児童虐待のない社会に向けてのメッセージを記入してツリーに貼るよう呼びかけた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

事前に展示資料などは整えたが、いざ説明しようと言葉に詰まってしまい、準備不足を実感した。しかし、私たちの説明に耳を傾けてくれる人がいて責任とやりがいを感じた。

「虐待」という言葉に暗いイメージがあるためか、大学祭では、説明を聞きにきてくれる人やチラシやオレンジリボンももらってくれる人が少なく苦労した。一方、授業時間内のプレゼンテーションではよく聞いてもらったので、今後は活動を行う場の設定にも配慮が必要である。

活動を通して学内の「オレンジリボン」に対する認知度は高まったが、まだ児童虐待問題の深刻さなどについての理解は十分ではないようなので、今後も啓発活動を続けていきたい。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

名古屋市立大学 実施報告書



実施主体 看護学研究科助産師国家試験受験資格取得コース 1 年有志

実施内容 平成 25 年 11 月 2 日、3 日の大学祭にて啓発活動

① 事前に取り組んだ内容

オレンジリボン運動の起源や具体的な活動について事前に学習を行い、助産師として虐待予防にかかわる意義について認識を共有。活動の概要・虐待の種類や児童相談センターなどの情報を掲載した掲示物を作成した。また、オレンジリボン運動公式 HP にてリボン作成方法を確認し、オレンジリボン 400 個を配布用に作成し当日に備えた。学校祭のパフレットに広告を掲載し、告知を行った。

② 実施期間に取り組んだ具体的内容

来場者に「オレンジリボン運動を知っていましたか？」の質問ボードに YES/NO の 2 択でシールを貼ってもらい、オレンジリボン運動の認知度を調査。その後、オレンジリボン活動概要の説明、リボンの配布をした。2 日間で協力をしていただいた方の合計人数は 462 人 (YES78 人(17%) NO384 人(83%))で、リボンは 502 人の方に配布することができた。

③ 「オレンジリボン運動」を終えての感想

来場者の大部分は、今回のイベントが初めてのオレンジリボン運動との接点となった。認知していなかった来場者の中にはスタッフに積極的に話しかけるケースもみられ、オレンジリボン運動への関心は高さを感じるとともに、きっかけづくりの大切さを感じた。若者世代にアプローチできた他、育児を終えた世代や現在育児中の親世代、また当事者である子どもにも周知できたのでよかった。

来場者から、イベント主催者の立場に関する質問があり、助産師の児童虐待予防における役割の認知不足もみられた。今後、助産師による児童虐待予防活動拡大により、周産期に児童虐待死が多いという実情において、母子の健康を守る専門職者としての助産師の役割を周知していくことが課題であると感じた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 愛知淑徳大学 実施報告書



実施主体 福祉貢献学科 福祉貢献学会 チャリティー班
実施内容 平成25年11月2日、3日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボンと一緒に配布できるようにポケットティッシュを用意した。また、学内の目に付くところポスターを掲示できるように場所の確保を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭当日、来場者を対象にオレンジリボンポケットティッシュに貼り、パンフレットともに配布した。また、オレンジリボンについて書いた板を首からかけ、宣伝しながら会場内を歩いた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

大学祭の来場者は学生はもちろんのこと、近隣の住民の方や教職員の家族など多様である。幅広い層に、子ども虐待防止のためのオレンジリボン運動について伝えることができたと思う。ポケットティッシュに貼って配布することで、受け取ってもらえる率も高かったのも、よい方法だったのではないかなと思う。また、当日子ども連れで来場していた人からまだ子どもがいない若い学生まで、幅広く受け取っていたので、限定された人だけでなく広く関心をもってもらったのではないかなと思う。ポスターの掲示方法などを工夫しながら、またこの子ども虐待防止の啓発活動を続けていきたいと思う。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

日本福祉大学 実施報告書



実施主体 日本福祉大学オレンジリボン実行委員会

実施内容 平成25年11月16日～17日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

平成25年9月から7回の実行委員会を開き準備を進めた。また、愛知県、東海市、知多市、常滑市、大府市、半田市、阿久比町、東浦町、武豊町、美浜町、南知多町の後援をいただき、物的・人的支援をいただくことができた。テント前には大きな「オレンジリボンツリー」を飾り、関心を持っていただけるように心がけた。

大学からは「創立60周年事業」に位置付けていただき、多額の助成金をいただくことができた。また公式フェイスブックで逐次実行委員会報告を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- (1) オレンジリボンの作成と配布(学生や市民に対して)
- (2) 児童虐待をテーマにした映画の上映(2回)とミニトークショー
- (3) 大学の近くにある児童養護施設やファミリーホームの子どもと職員を招待し、室内ゲーム、工作、ドッチボール、模擬店での買い物など楽しんでいただいた。
- (4) 児童養護施設の高校生に対し、児童養護施設出身の卒業生や現役の大学生が「体験談」を話し、高校生のエンパワーメントを図ることができた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

(1) 児童養護施設、ファミリーホームの子どもたちは初めて大学祭に来る子が多く、学生と一緒に構内を回り、ゲーム等楽しむことができた。「来年もやるの」「また来たい」といった意見が寄せられた。

(2) 映画コーナーには、社会福祉等に関心がある高校生が数名参加しており、大学進学を希望したいとの反応があった。

(3) 「体験談」に参加した高校生4名から「参加して、これからの生き方の参考になった」とのお手紙をいただいた。

(4) 子ども虐待防止に関心の高い学生が学部や学年を越えて学び合い、交流することができた。

(5) 市町の行政関係者も参加していただき、この運動に協力していただくことができた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 名古屋柳城短期大学 実施報告書



実施主体 学生会

実施内容 平成25年12月17日~20日大学近隣の公共施設周辺にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待の実態などについて、インターネットや新聞記事、書籍などで調べた。
授業などで学んだ児童虐待についての内容をもう一度振り返った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

短大近隣にある区役所にポスターの貼付を依頼し、また授業の空き時間を利用して交代で区役所を利用される市民の方々にリボンの配布で関心をもってもらおうと呼びかけた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・少しでも多くの人にオレンジリボンを配り、また知ってもらい、一人でも多くの子どもが助かるためにも、この活動をやってよかった。
- ・子ども連れの方は受け取ってもらえるが、サラリーマンなどは関心がなさそうで残念だった。
- ・オレンジリボンの配布だけではなく、活動を具体的に伝えられる機会があると良いと思った。

